

調布教会 教会学校 週報

2025年度 みことば

「 神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。 」
ヨハネによる福音書 3章16節aより



きょうかいかがっこういはい
教会学校礼拝プログラム

2025年 12月28日

前奏

*賛美

お祈り

聖書
こうどくしへん
交説詩編

説教

暗唱聖句

默想タイム

*賛美

献金と感謝のお祈り

*主の祈り

お知らせ

「星が光るクリスマス」

天の愛するお父さん、あなたは天の国の秘密をその心に隠しておられます。そのようにして、「どれだけ私のことを知りたいのか」と、私たちを知ろうとしておられます。しかし、辛抱強く願い求めるあなたの友には、その心の内を明かしてくださいます。「ご自分の弟子たちにはひそかにすべてを説明された（マルコ4:34）」とあるとおりです。アーメン。

マタイによる福音書 2章1～12節 新約聖書p. 2

交説詩編（3）詩編19より p. 201

「事を極めるは王の誓れ」

イエスさまの誕生を喜んだ羊飼いと東方の博士たちは、その祝いに訪れました。確かに、当時の人たちにとって救い主の誕生は、それを信じる人には、とても嬉しい知らせです。しかし、それは2000年ほど昔のお話です。今、人の身をもってお生まれになったイエスさまはいません。それでは、今の私たちにとっては、これらの出来事の何を喜べばよいのでしょうか。

しかし、今の私たちには、聖霊をとおして“信仰”が与えられています。これは、常に神を探し、求め、叩き続けることを知らせるイエスさまからの贈り物の1つです。本日は、Q&Aを用いながら、「別の道を帰ること（イエスさまの訪れ）」について、御心を深めていきます。アーメン。

それから、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通って自分の国へ帰って行った。（マタイによる福音書 2章12節）

「かいばおけにねむる」 こどもさんびか改訂版 68

いのちの

24-1

天にましますわらの父よ。願わくは御名をあがめさせたまえ。御国を来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。我らの日用の糧を今日も与えたまえ。我らに罪を犯すものを我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。
我らを試みにあわせず、悪より救いいだしたまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。 アーメン

・次回は、2026年の教会学校新年礼拝です。

・主日礼拝前半の「子ども説教」への出席をお待ちします。

・教会に来られない時は、LINEを利用して家庭礼拝をおささげしましょう。

36 今までかけよう

黙祷

*賛美

*祝福

こうそう

奏

<せいしょ>

せいしょかしょ せいしきょうかい きょうどうやく
聖書箇所 「聖書協会 共同訳】 マタイによる福音書 2章 1～12節 新約聖書 p. 2

1 イエスがヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、東方の博士たちがエルサレムにやって来て、^{おうじだい} 2 言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。私たちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」 3 これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、^{ひとびとみな} 同様であった。 4 王は祭司長たちや民の律法学者たちを皆集めて、メシアはどこに生まれることになっているのかと聞いた。 5 彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者がこう書いています。 6 『ユダの地、ベツレヘムよ / あなたはユダの指導者たちの中で / 決して最も小さな者ではない。あなたから一人の指導者が現れ / 私の民イスラエルの牧者となるからである。』」 7 そこで、ヘロデは博士たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時期を確かめた。 8 そして、こう言ってベツレヘムへ送り出した。「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。^{わたくし} 私も行って拝むから。」 9 彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方から見た星が先立って進み、ついに幼子がいる場所の上に止まった。 10 博士たちはその星を見て喜びに溢れた。 11 家に入ってみると、幼子が母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。 12 それから、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通って自分の国へ帰って行つた。

<さんび>

☆ 星が光るクリスマス



- ほしがひかるクリスマス てんしうたうメロディー
ひつじかいきておがむ すくいぬしのイエスを
- はかせ3にんたびをして まぶねにねむるイエスに
おうごん にゅうこう もつやくを ささげはいすイエスを
- さんびのうた そらにひびく きみとぼくみんな
ともにうたおー



詩・曲 げんじ

かいばおけにねむる

- かいばおけにねむる
ひとりのおさなごは
わたしたちのための
すくいのしるし
- (くりかえし)
さあいこうよ、ベツレヘム
すくいのしゆをみに
つたえよう、みんなに、
うれしいしらせを
- てんしたちとともに
こえをあげてうたおう
「くらいよにうまれた
きぼうのひかり」 *
- わたしたちのために
しゅはまずしくなられ
わたしたちのために
じゅうじかおわれた *

